

志望業界や職種はどのようにして絞りこみましたか？

数学が好きで、数学を活かせるキャリアを築きたいと考えていました。大学1~2年のころ、金融業界には数学的な手法が役立つ仕事がいくつかあり、金融工学という学問も発展してきていると知り、興味を持つようになりました。

アクチュアリーを知ったのもそのころです。学部進学を決める際に読んだ数学科紹介のパンフレットの中でアクチュアリーが紹介されていて、「こんな職業があるのか」と記憶に残りました。

就職活動を始めてから、中心に見て回ったのもアクチュアリーでした。ほかにはクオオツツの仕事についても調べてみました。就活開始直後は二つの仕事の違いについてイメージできていなかったのですが、セミナーなどに参加して徐々に理解を深めていきました。

保険は元々、相互扶助のために生まれたもの。アクチュアリーにとって数学はあくまで素養であって、会社の一員として同僚とコミュニケーションを取って進めて



いく能力がすごく大切になります。そんな仕事の特性が自分の希望ともマッチしていて、「やはりアクチュアリーを目指すべきだ」と確信するようになりました。

アクチュアリー志望者にとって、数学的な素養は持っていて当たり前で、筆記試験では高得点が取れることが前提となります。その先の $\alpha$ として、数学的に導いた解を相手に噛み砕いて伝える力、コミュニケーション能力が問われてきます。自分としても、そういう仕事を望んでいました。

アクチュアリーを志すと、生命保険・損害保険・企業年金のどの道に進むかを就活中に決めないとはいけません。いろいろと見比べま

#### 【就活データ】

- 就活開始：2011年10月
- 就活終了：2012年5月
- 志望業界：金融
- エントリー：8社
- 面接社数：6社
- 内定社数：1社
- 内定先：三井住友海上火災保険株式会社（アクチュアリー）内定

## 活動体験談 01

### 役立ったのは、仲間との交流を通じた情報共有と自分磨き

東京大学大学院 数理科学研究科 修士2年 濱口 直樹

したが、損保は扱う商品が多く、多様性があってもおもしろそうだと感じました。社会に出てからも可能性が多く残っているところが、自分にとっては魅力的だったんですね。

#### 内定先を決めた要因は？

保険会社を何社か受けましたが、その中で最も温かみのある対応をしてくださったからです。面接などの連絡の際にも「体調を崩さないようにしてくださいね」といった、細やかな気遣いをいただけただけで嬉しかったですね。学生とも真摯に向き合ってくれる会社だと感じたので、「この会社から内定をもらえたら、迷わず受諾しよう」と決めていました。

#### これから就活に臨む読者へのアドバイスをお願いします

アクチュアリーはエントリーシートを提出する時期が結構早く、2月に締め切る企業もあります。「2月にやればいいや」ではなく、早め早めに準備しておくべきです。

自分の友人は自己分析をする際、「苦勞した経験をまずはA4用紙3~4枚ほどに書き出してみて、そこから削ってまとめる作業をした」と言っていました。そういった自分を見つめ直す過程は大切ですが、短い期間で手軽に済ませるのではなく、1~2カ月ほどは余裕を見て、じっくり取り組んだ方がいいでしょう。

あと、アクチュアリー志望者は決して多くなく、説明会・セミナーに参加するうちに「見たことのある顔」が増えます。「ご飯一緒にどう？」という流れも生まれてきて、自然と仲間ができてきます。仲間うちでの情報共有は大事ですから、就活仲間を大切にしてください。

就活を始めて間もないころは、どうしても独りよがりになっているところがあります。同じ業界・職種を志望している仲間と交流を深めることで、いろいろな考え方があることに気付けます。自分に足りないところは真摯に受け止め、改善すべきところは改善していつか、就職活動に役立ててほしいですね。

就職活動はどんなスケジュールでしたか？

学部3年の6月ごろに就職情報サイトに登録し、インターンシップに関する合同イベントに参加したのが最初です。それから、投資銀行を中心にインターンシップにエントリーし、日系金融機関のプログラムに参加しました。採用選考が本格化したのは、年が明けた2月くらいからです。4月にコンサルティンクファームから内定を貰い、就職活動を終わりました。

志望業界と内定先は？

当初は金融業界、中でも投資銀行に強い関心があり、国内外の投資銀行を中心に志望していました。しかし、インターンシップの選考がなかなか突破できず、視野を広げようとコンサルティンクファームも受けることにしました。選考を通じてコンサルタンの仕事内容や社員の魅力などを感じ、最終的にはコンサルティンクファームへの入社を決めました。

最初は「とにかく給料が高い会



理系ナビのサービスはいかがでしたか？

社がいい」と考え(笑)、投資銀行を志望していたのですが、選考が進むにつれ「お金を稼ぐにしても自身のスキルアップは不可欠であり、成長できる環境に身を置くことが重要なのでは」と考えるようになりました。それから、社員の方にリアルな仕事内容や勤務スタイルなどを聞いて、ハードワークでも若いうちから成長できる環境がある会社かどうかを見極めるよう意識しました。内定先の企業については、社員の方から話を聞いたとき、本当に楽しそうに仕事の話をする姿にも魅力を感じましたね。

case

02

## 理系の就職

どうすれば自分の“良さ”が相手に伝わるか、真剣に考える

東京工業大学 経営システム工学科 4年 S.A

【就活データ】

- 就活開始：2011年6月
- 就活終了：2012年4月
- 志望業界：コンサル、金融
- エントリー：18社
- 面接社数：7社
- 内定社数：2社
- 内定先：コンサルティンクファーム内定

理系ナビの情報誌はよく読んでいました。金融、コンサル業界の特集記事や社員インタビューなどは、大変参考になりました。そのほかにも金融業界研究セミナーなどに参加し、業界や職種についての理解を深めることができました。

就職活動で苦労したことは何ですか？

理系の学部生での就職活動、さらに金融・コンサル業界志望ということもあり、周囲に相談できる仲間がいなかったことですね。情報収集は大変でしたが、情報共有の掲示板や就職情報サイトをチェックするなどして情報収集に努めました。また、「就職活動がうまくいかなければ、進学すればいい」という思いが心の片隅にあり、モチベーションを維持するのにも苦労しました。

就職活動で大切に感じたことは？

私が心掛けていたのは、正直であることです。投資銀行やコンサルは採用人数が少ないので、英語が得意なわけでもなく、これ

といつてすごいスキルもない自分が普通に選考に参加すれば間違いなく落とされると思いました。そこで自分のキャラクターを活かせるよう、面接官を楽しませられるよう努めました。「お金が欲しいんです！」と正直に言ったり、ストックしていた「滑らない話」を披露したりすると大抵は笑ってくれました。もちろん、いつも同じトーンで臨んでいたわけではなく、相手によってトーンを変える場合もありましたが、出来るだけ素の自分を伝えられるよう心掛けました。

これから就活に臨む読者へのアドバイスをお願いします

就職活動のマニュアル本などを参考にして、無難に乗り切ろうと考えるのはお勧めしません。面接官は同じような話ばかり毎回聞かされ、正直飽きています。どうせやるなら素の自分で、正直にぶつかった方がいいと思います。「面接官にどんなことを言えば印象に残るか」「どうすれば自分の良さが伝わるか」真剣に考えてみてください。荒削りでもオリジナリティのあるPRの方が、あなたの良さが伝わるはずですよ。